



# 善正寺だより

掲示板法話

## 「縁は見えないけれど

### 限りない「縁の恵みを賜っている

寒さ厳しい冬がようやく峠を越して桜のつぼみも膨らみ始めました。厳しい寒さに耐える力を与えてくれるのは、温かな「春の訪れ」を予感できるからではないか、と思います。

「無縁社会」に関する報道がしきりになされています。地縁、血縁、社縁の絆が薄くなったからだと言者は分析します。確かに、都市化や地方の過疎化、少子高齢化、非正規雇用の増加、未婚化などが無縁社会化の背景になっています。しかし、「嫌なもの」や「痛み」をなくし、ひたすら快楽を求めて止まない現代の「無痛文明」の中で、すっかりひ弱になってしまった我々現代人の精神構造がその隙間から見え隠れしています。この暗闇から脱却するにはどうすればよいのでしょうか？

「誰からも必要とされていない」「誰からも声をかけられない」「助けてください」といなど、1万4千人もの悲鳴に似た声がNHKに寄せられました。一通の「遺書」が編集者宛に届けられて、担当者が投書の主を訪ねました。長い孤独に耐えられず、思いつめたYさん(39歳)は「生きた証し」を残そうと考えて「遺書」

をNHKに送り、NHKの人と言葉を交わすうちに、「地域の人たちと関わろう」と思い立ちます。付近の道路清掃をするうちに、登下校の子供たちから声をかけられるようになりました。嬉しくなったYさんは学校にカブトムシを贈ります。すると子供たちからYさんの似顔絵が描かれたお礼の手紙が届けられ、「一人ぼっちではないと実感できました」と笑顔を取り戻すことができました。いい話だなあ、と思います。声をかけ合うよう努めたいと思います。他人から声をかけ易い私であるよう柔らかな姿勢を心がけたいとも思います。確かに人間関係にはわずらわしさがあります。しかし、至らない自分自身がどう格好つけても許されているのです。こうした患者の自覚に立ってこそ、片意地張らずに許し、許されて生きることができのです。「縁は中々見えないけれど、重々無縁(限りない「縁」)の恵みを賜っている私だと照らされ、安心して往ける人生にしたいと思えます。愚者の自覚に生きられた親鸞様に学び、闇から光に方向転換したいものです。

☆行事ご案内☆

## ☆春季永代経法要

3月5日(土)・6日(日) 両日共午後1時半

講師 石川欣也先生(大和郡山市)

※5日夜7時半(披露宴準備打ち合わせ)  
世話方さん、行事さんご参集よろしくお願ひします。

♪三重組コーラス♪ 会場西勝寺様で午後1時半、三重組主導新指導者体制 3/7(月)「みめぐみの」「あの空見れば」

◇キッズサンガ

毎日夕方5時の鐘撞きは誰でもOK 飴ガム付。年中無休  
3月4月、4時からの集いは行事でお休み、鐘撞きは来てね!

3/20(日)夜7時 三全仏教婦人会総会(善正寺)

◇一縁会テレホン法話059・354・14543分間法話聞けます  
善正寺ホームページ「三重 善正寺」で検索。「つれづれ日記」が好評  
長男もブログに参加、3万8千回アクセス達成! 毎日60~70の訪問に感謝! HPからのメール、悩み相談など大歓迎!

※4/3仏前結婚式(10時半)、夕方5時半本堂で「門信徒及び近隣向け披露宴」ご参加の出欠締め切りは2月末。お早めに!

※10月15日(土)京都西本願寺親鸞聖人750回大遠忌法要バス参拝(50名)定員になり次第締め切り。費用8千円を添えてお早めにお申しこみ下さい。宗祖讃仰作法音楽法要でお勤め。



- 平成23年度善正寺主な行事予定
- ※3/5(土)午後1時半6(日)午後1時半「永代経」(石川欣也先生)
  - ※3/20(日)夜、三全仏婦総会
  - ※4/3(日)長男潤爾結婚式
  - ※5/22(日)(午前)門信徒総会・(午後)公開法座(藤大慶先生)
  - ※8/20(土)午後・夜・21(日)午後「永代経」(足利孝之先生)
  - ※9/18(日)午前・午後・小杉仏教会主催「追悼法要」(貴島信行先生)
  - ※10/15(土)親鸞聖人750回大遠忌法要バス参拝(50名)
  - ※12/3(土)夜お内仏報恩講
- ☆毎月の例会は原則として第3日曜の夜7時半

# 坊守スケッチ

## リハビリ中の人からの手紙



昨年末、脳梗塞で緊急入院されて、二週間後に別の病院に転院された方から、嬉しい手紙とコピーを戴いた。手紙の冒頭には『八十の手習い』という題がついている。その一部を紹介。

「転院後は食事も美味しく、みるみる体調も回復。リハビリも順調に進行。歩く稽古、腕を動かす稽古、舌と口でしゃべる稽古、字の稽古など、先生の親切な指導で励んでいます。リハビリ室に入って、先ず真つ先に見つけたものは、『あたりまえ』という詩です。コピーをしてもらったので送ります」。

### 『あたりまえ』

あたりまえ こんな素晴らしいことを  
 皆はなぜ喜ばないのでしよう  
 お父さんがいる お母さんがいる  
 手が二本あって 足が二本ある  
 行きたい所へ 自分で歩いて行ける  
 手を伸ばせば 何でも取れる  
 音が聞こえて 声が出る  
 こんな幸せはあるのでしょうか  
 しかし 誰もそれを喜ばない  
 あたりまえだと笑っています  
 食事が食べられる 夜になるとちゃんと眠れ  
 そして又朝が来る  
 空気を胸いっぱい吸える 笑える 泣ける  
 叫ぶことも出来る 走りまわれる  
 みんなあたりまえのこと  
 こんな素晴らしいことを

みんなは決して喜ばない  
 そのありがたさを知っているのは  
 それを失くした人だけ

この詩は将来を嘱望された青年医師井村和清さんの作品。井村さんには1歳6ヶ月の長女飛鳥ちゃんと、妻倫子さんのお腹の中にもう一人子供がいた。昭和52年、右膝に悪性腫瘍が見つかり、転移を防ぐ為に右足切断。それにも拘わらず腫瘍は両肺に転移。残された時間が僅かであることを知った井村さんは、妻と娘とそしてまだ見ぬ子に、手記を綴り始めた。昭和54年治療の甲斐なく32歳の若さで亡くなった。遺稿集『飛鳥へそしてまだ見ぬ子へ』という題でテレビドラマ化。当時私も子育て中、その本を読みテレビも見て、涙を禁じえなかった。あれから32年、病院のリハビリ室で見かけたこの詩が、闘病中の人々をこのように励ます。井村氏がわが子に宛てた個人的な詩であったかもしれないが、多くの人々に苦難を乗り越える勇気と生きる感動を与えてくれる。冬が去り、春が来る。朝になれば東の空から太陽が昇り、夕方になれば西の山に沈む。夜になれば月が出て星が瞬く。あたりまえの光景だが、それでは喜びも感動も感謝もない。あたりまえを、有り難いと受け止めるには、失くさな

ければ分からないのか？いやそうではない。現在リハビリ中の人は、若い時からずっと聴聞に励まれた達人！心を動かし、心を鍛える訓練をされた。寺のためにも沢山のご報謝をされ、私を坊守として育てた恩人でもある。

### ☆寄稿

四日市市 川崎孝一

☆初の雪 舗装路面を 掃く音の  
 木霊が返る 未明の静寂

☆雪舞うも み堂に入れば

☆朝事の 朱蠟の炎 穏しく揺らぐ  
 お祈りの 華燭の典を 春に待つ

☆後継の 門徒挙げて 祝福ムード

四日市市 釈 恩厚の夫

☆菊香る 讃歌が響く 本願寺

四日市市 釈 妙水

☆バス出てく 走る足止め 冬の朝

☆薦の中 すっぽり被る 寒牡丹

☆一村を 丸ごと飲み込む 雪の朝

### ♪三重組コーラス♪

☆西勝寺様で3/7(月)午後1時半

新指導者で練習

### キッズサンガ・杉の子合唱団

夕方5時の鐘撞きは毎日。ガム・飴

第一土曜日4時の集いは、3月・4月

は他の行事があるのでお休みです。

### ☆カンパ有難う☆

鈴木登代子様・水谷勝子様・他匿名様

### お悔やみ申し上げます

★服部繁市様(1月25日亡・93歳)

★桜花台(合掌)

★白石弘道様(2月5日亡・76歳)

小杉(合掌)

### ☆ホットニュース☆

☆3/5(土)夜7時半(永代経初日)

本堂での披露宴準備打ち合わせ。行事

さん、世話方さんよろしく！

☆4/3夕方5時半本堂での披露宴出

欠表締め切りは2月末ですが、準備の

都合上お早めにご提出下さい。その日

「娘達よ」の歌を全員で合唱。

☆10/15(土)京都西本願寺バス団

体参拝(音楽法要・50名、8千円)募

集を開始！定員になり次第締め切り

ますのでお早めにお申し込み下さい

☆善正寺のホームページ・「三重 善正

寺」で検索可。毎日更新の「住職と坊守

のつれづれ日記」が好評。長男も若い感

覚でブログ投稿。開設2年7か月で3

万8千回。平均一日70アクセス！

☆住職と坊守の2冊目の共著本『鳥の

眼・虫の眼・仏の眼』(自照社刊)好評発

売中！挿絵は門徒の服部雅之氏(定価

1260円を著書割引千円で特別販売)

### ☆編集子より ☆

「善正寺だより」二〇七号をお届けしま

す。◇親鸞聖人七五〇回大遠忌法要が

四月から来年一月まで修行されます。

新聞小説『親鸞』(激動編)は、流罪の

地・越後での親鸞様ご夫妻の生活が描

かれていきます。遠く仰ぐ聖人像でなく、

生身の聖人像に接するような読み方を

したい。皆様ぜひ愛読頂きたいと思いま

す。◇長男の挙式まで後1ヶ月。準備を

進める中で、お蔭様の歴史を思い出す

次第。よろしくお願い申し上げます。

春は名のみ風の寒さやこで始まる唱歌 早春賦  
似合う季節となりました。2月15日は涅槃会でお釈迦様が入滅された日です。仏教徒ならば前日のバレンタインデー以上に深く心に刻んで欲しい日です。涅槃会には涅槃図が掲げられ法要が勤まり絵解きをして下さる寺があります。近くでは鈴鹿神戸の寝釈迦が有名です。その図には、娑羅双樹の下で大きなお釈迦様が中央の台で、頭を北に、顔を西に向き、右手を枕にして横臥しています。周囲には十大弟子を始めとして諸菩薩、老若男女、鳥獣までもが嘆き悲んでいます。百獣の王獅子や、白いゾウ、猫の姿も見えます。右上からは雲に乗せてとうり天にいた母君マヤ夫人が迎えに降りてきました。お釈迦様はわずかに生後七日目で母君と死別されました。マヤ夫人は難産で産後の肥立ちが悪かたとのこと。お母様の顔も知らず育ったお釈迦様は、一度でいいから会いたかたーそのお母様が迎えに来て下さったのだから嬉しいに違いないとせん。私はこの涅槃図を見た時「死ぬことは先に死んだ人に会えることなんだ」と恐いことでも何でもない、きつとまた会えるからそれまで精一杯生き抜こう」と直感しました。3月は5日(土)6日(日)要に午後(時半)永代経(奈良石川欣也先生)3/20(日)夜7時三全仏婦統会、3/29(日)披露宴出席表未提出のお方はどうかお早目にお願いします。合掌

平成二十三年三月

善正寺坊守揮